

平成二十七年 度

岡山中学校 「A方式」 問題Ⅱ

【注意】

- この試験は、文章や資料を読んで、太字で書かれた課題に対して、答えやあなたの考えなどを書く試験です。課題ごとに、それぞれ指定された場所に書きましょう。
- 試験用紙は、表紙(この用紙)をのぞいて三枚あります。指示があるまで、下の試験用紙を見てはいけません。
- 「始め」の合図があつてから、試験用紙の枚数を確かめ、三枚とも指定された場所に受験番号を記入しましょう。
- 試験用紙の枚数が足りなかったり、やぶれていたり、印刷のわるいところがあつたりした場合は、手をあげて先生に知らせましょう。
- 試験用紙の※

 には、何も書いてはいけません。
- この試験の時間は、四十五分間です。

課題1 次の文章は、「希望学」を研究している筆者が、勉強する意味について語っている文章の一部です。これを読んで、あとの(1)から(4)に答えましょう。

学校を卒業して、社会に出ると、毎日が本当にわからないことだらけです。どんなふうに住事をすればよいのか。将来の人生設計をどうすればよいのか。悩みは尽きません。

筋道を考えてよく計画をし、行動しようとしても、作戦どおりにいかないことが、しょっちゅうです。そもそも作戦や戦略を立てて何かをすることが成功するのは、社会の仕組みやルールがよく整備されていて、その中身を完璧に理解できるときだけです。でも社会はそれほど完璧ではない。筋道を立てようとしても、立てようがないのです。

だとすれば、よくわからない社会を毎日生きる上で、もつとも大切なことはなにか。それは「わからない」ということで、簡単にあきらめないことです。逃げ出さないことです。「わからない」から不安だとか、つまらないと思わない。むしろ「わからない」からおもしろいと思えるかどうかです。

そもそも毎日の生活で幸福に生きているかを点数ではかったとして、自分は百点満点といえる人はどれくらいいるのでしょうか。でも百点でないから駄目だということでもない。五一点以上をなんとか取る。赤点さえ取らなかつたら、前にはじゅうぶん進めます。いや、たまに落第したって、かえって、それが後からふりかえってみると、長い目でみてよかつたなんてこともある。学校の勉強と同じです。

わからないということに慣れる練習をしているというのは、考えてみると、教室での勉強にかぎったことではありません。部活動だって、そうでしょう。バスケットボール部でもっとシュートがうまくなりたい。でもどうすればもっと成功率を高くできるか、わからない。わからないから、あきらめずにコツコツ練習する。吹奏楽部だって、もつとうまく演奏できるようにになりたいから、練習したり、先生や先輩、仲間のアドバイスを真剣に聞いたりする。中学校に限らず、学校での生活はすべて、わからないことに慣れる練習なのです。

希望も同じです。希望なんて、考えても考えても、つかみどころのない、わからないものです。でもわからないからこそ、おもしろい。希望という視点から社会を考えることで、新しい見方ができる可能性があるからです。

希望学をはじめたときに、ある人から「希望学の最終的な落としどころはどこですか」ときかれたことがあります。勉強にはどこの大学に入りたいとか、学問にも論文をどこの専門雑誌に掲載したいといった、あらかじめ目標やゴールを設定して行う場合があります。でも、希望学は、最初から落としどころなんて、考えてもいませんでした。やりながらどこに向かうかを考えるというのが、正直なところでした。でも、新しいことを始めるためには、それでよかつたんだと、今は思っています。

私自身が希望学から学んだ一つは、「わからない」から逃げないことの大切さでした。そしてそれこそが、勉強や学問の意味だということ、あらためて思い知らされた気がしています。

もちろん、わからないということは、不安ですし、つらいことです。特にわからない状態がずっと続くというのは、相当のストレスになったりします。よく社会の状況を説明するときに「閉塞感」という言葉が使われますが、それも社会がどうなっていくか、先がわからないことによる不安を表すものでしょう。

しかし一方で、わからないということは、チャンスでもあります。わからないということから逃げ出さずに、その理由を明らかにしようとする行動することが、自分の進むべき道を照らしてくれることもあります。

芸術家が代表作品をたずねられたときに、「これから作る作品です。(代表作は)まだない」と答えたりするのもすべて、わからないことへの挑戦でしょう。すぐれた成績を残している野球選手ほど、現状に満足せず、「自分にはまだ本当のバッティングがわかっていない」という思いをつねに持っているものです。

アーティストやスポーツ選手に限らず、自分にとつて何がわからないかを知ることが、私たち一人ひとりに、チャンスを与えてくれたりします。

(玄田有史著『希望のつくり方』から)

*1 赤点…試験などで合格にならない点数のこと。落第点。 *2 吹奏楽部…管楽器を中心に音楽を演奏する部活動。

*3 掲載…文章や写真をのせること。 *4 アーティスト…芸術活動を行う人。

(1) ○○率・○○性・○○感というように、率・性・感の語で終わる三字のことはを、それぞれ一つずつ考えて漢字で書きましょう。ただし、本文中にある「成功率」「可能性」「閉塞感」以外のことはにしましょう。

率

性

感

※

受験番号

(2) 「『わからない』からおもしろいと思えるかどうかです」とありますが、あなたにとって「わからない」から「おもしろい」と感じられるのはどのようなことですか。具体例を考えて一つ書きましょう。またその理由を書きましょう。ただし、具体例は、勉強のことでも、それ以外のことでもかまいません。

具体例

理由

※

(3) 「ある人から『希望学の最終的な落としどころはどこですか』ときかれたことがあります」とありますが、「ある人」は学問をどのようなものだと考えている人ですか。「人」で終わるように、一文にまとめて三十字以内で書きましょう。「、」「、」「や」も一字に数えます。

30字

※

(4) 筆者は「わからない」ということごと、どのような良い面があると考えていますか。八十字以内で書きましょう。「、」「、」「や」も一字に数えます。

1 ※

80字

※

課題2 「井の中の蛙大海を知らず」ということわざには、「経験が少なく、考え方がせまいために広い世界のことを知らない」という意味があり、経験を多く積み、視野を広げることの大切さを述べるときなどに使われます。

あなたなら、人やものに対する自分の見方を広げるために、どのような「経験」をしたいと思えますか。具体的な「経験」を一つ取り上げて、そう考えたわけを二百字以内で書きましょう。「、」「、」「や」も一字に数えます。段落分けはしなくてよい。一マス目から書き始めましょう。

2 ※

200字 100字

※

3※

課題3 放課後、太郎さんと明子さんが図書室で先生と話をしています。

先生：太郎さんと明子さんは、毎日のニュースに気をつけているかな。

太郎：僕は毎日、インターネットでサッカーのニュースを見えています。

明子：私は夕方のテレビのニュースをいつも見えています。

先生：感心だね。2人とも毎日ニュースを確認しているんだね。今日はニュースに接する方法について、資料をもとに考えてみようか。

太郎：どんな資料ですか。

先生：資料1は、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットの4つを、各世代の何%の人が毎日利用しているか、一日どの位の時間利用しているかをまとめたものだよ。利用している時間は平均で示しているよ。

明子：新聞やインターネットを利用する人の割合は、世代によって大きく違うわ。

太郎：本当だ。でも新聞を読んでいる時間は、どの世代でも1時間未満だね。

明子：2時間以上テレビを見ている人が多いのね。

先生：資料2は1世帯あたりの新聞の購読部数を示したものだよ。

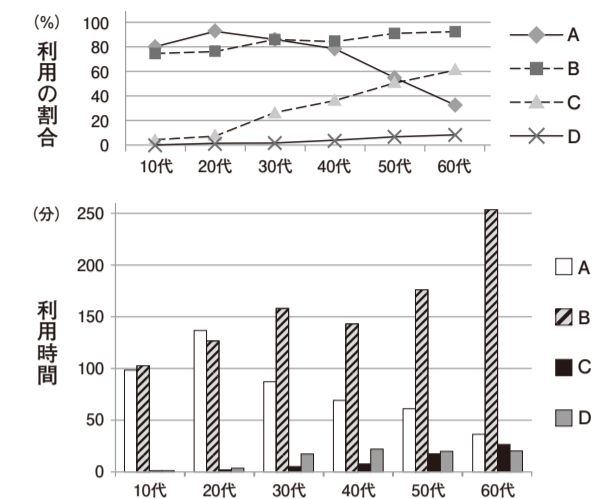
太郎：1世帯あたりの新聞の購読部数は毎年減っているんだね。知らなかったよ。

明子：どんな方法でニュースに接するのがいいのかしら。迷うわ。

先生：そうだね。1つの方法だけでニュースに接するのではなく、いろいろな方法を使うことが大切だと思うよ。テレビやラジオ、インターネットはニュースを早く知るには適しているよね。新聞では早くニュースを知ることはできないけれど、優れている点もあるよね。だから、テレビやラジオなどで知ったニュースを新聞で確認するのが一番いいと思うよ。

*1 購読…新聞や雑誌、本などを買って読むこと。

資料1 情報を得る方法として何を利用するか



・総務省「平成25年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」により作成。

資料2 1世帯あたりの新聞の購読部数

2006年	1.02
2007年	1.01
2008年	0.98
2009年	0.95
2010年	0.92
2011年	0.90
2012年	0.88

・「日本新聞協会調査」により作成。

- (1) 資料1のA～Dにはそれぞれ、「新聞」、「テレビ」、「ラジオ」、「インターネット」のいずれかがあてはまります。会話文を参考にして、A～Dにどれがあてはまるかを書きましょう。また、10代や20代などの若い世代と60代との違いについて、資料1から読み取れることを2つ書きましょう。

A () B () C () D ()

※

- (2) 資料2のように1世帯あたりの新聞の購読部数が減っている理由をインターネットの広がり以外に1つ考えて、書きましょう。ただし、朝刊だけを購読していても1部、同じ新聞の朝刊と夕刊を購読していても1部として、1世帯あたりの部数は計算されています。

※

- (3) 「テレビやラジオなどで知ったニュースを新聞で確認するのが一番いいと思うよ」という先生の意見に対して、あなたはどのように考えますか。「賛成」か「反対」かのどちらかの立場を選んで○で囲み、そう考えた理由を書きましょう。

< 賛成 ・ 反対 >
(そう考えた理由)

※